

南台人文社會學報 2013 年 05 月

第九期 頁 155-178

日本語の主観性表現についての教科書分析

—初級の教科書を例に—

蔣千苓*

要旨

本稿は日本語の主観性表現について、初級教科書を用い、分析するものである。日本語は文末形式が豊かな言語であるとよく言われているが、台湾人日本語学習者にとっては、習得しがたい項目である。初級の後半から文末の主観性表現をいろいろ覚えるにも関わらず、主語の人称による表現の使い分けは中級、上級レベルの学習者でもよく区別できないという声が多い。また、台湾では教科書が主要教材であり、学生の教科書への依存度は非常に高いという現状がある。教科書への依存度が高ければ高いほど、教科書の主観表現の扱い方によって、学生の習得程度は大きく影響されると考えられる。そこで本稿は台湾の日本語初級の教科書で主観性表現がどう扱われているかを見ていくこととした。調査の結果から見ると、初級教科書には一部を除いて、主観性表現をあまり配慮してはいないことが判明した。主観性表現を指導する際、異なった人称詞の表現練習、適宜な提示、用法の説明などを組み込む必要があると思われる。

キーワード：主観性、欲求、意志、思考動詞、教科書分析

*蔣千苓，義守大學應用日語學系助理教授

電子信箱：cchienling@isu.edu.tw

收稿日期：2013 年 03 月 20 日，修改日期：2013 年 05 月 15 日，接受日期：2013 年 05 月 22 日

南台人文社會學報 2013 年 05 月

第九期 頁 155-178

日語主觀性表現之教科書分析 — 以初級教材為例 —

蔣千苓*

摘要

本文以日語初級教材為分析文本，針對日語中的主觀性表現進行對照分析。日語的句尾表現相當多元，但對台灣的日語學習者來說，卻是學習上的一大難題。儘管學習者學至初級後半時已經學過各種日語的主觀性表現，但很多程度很好的學習者，亦即中高級學習者仍舊無法由人稱詞判斷日文主觀性表現的用法。在台灣學日文，還是以教科書為主，學生學日文時非常依賴教科書，也因此教科書對主觀表現的描述，往往會影響學生的學習成果。所以本文欲探討台灣的日語教材對主觀性表現的說明是否詳實明確。由研究結果來看，除了少數的初級教科書對主觀性表現有較詳細的說明外，大多數均未提及。本文認為教師在指導主觀性表現時，應導入不同的人稱詞加以運用變化，並加入適當的提示以及各種用法的說明。

關鍵詞：主觀性、欲望、意志、思考動詞、教科書分析

*蔣千苓，義守大學應用日語學系助理教授

電子信箱：cchienling@isu.edu.tw

收稿日期：2013 年 03 月 20 日，修改日期：2013 年 05 月 15 日，接受日期：2013 年 05 月 22 日

一、はじめに

本稿は教科書における主観性表現の現れ方について分析するものである。日本語は文末形式が豊かな言語であるとよく言われているが、台湾の日本語学習者にとって、習得しがたい項目の一つと言えよう。

日本語学習者は初級の後半から文末の主観性表現をいろいろ覚えることになる。ところが、「花子はこれから日本語の勉強を頑張ると思う」「おばあさんが健康になりたいです」など、日本語では不適切と考えられる文が多く見られる。学習者は主観性表現を長い期間勉強していても自分の「誤用」に気付かないまま、よく混同している。

また、教科書への依存度が高ければ高いほど、教科書の主観表現の扱い方によって、学生の習得程度は大きく影響されると考えられる。そこで教科書で主観表現がどう扱われているかを見ていくことにした。さらに、よく見落とされがちな人称別の問題点に着目し、人称別による用法の説明があるかどうかをも考察する。

なお、考察項目に関しては、本稿は日本語学習者が学習の初期の段階で学び、また、日常生活においても必要とするであろう欲求表現・意志表現・思考動詞の三つに焦点を当て、教科書を考察する。本稿は教科書の問題点を指摘し、その問題点を克服できるような指導法を提案したいと考えている。

二、主観性表現に関わる先行研究

日本語は中国語と違って、自分自身の感情は直接的に語れるが、第三者のことは様子からの判断や推量でしか語れない。主観性表現につ

いて詳しく論じたものとしては森山(1990)、益岡(1991)、近藤(2012)などが挙げられる。

現時点の主観性表現の研究においては、モダリティとして取り扱われることが多い。森山(1990)では、意志形のモダリティ、命令表現、ないし推量表現に関し、詳しく分析している。これに対して益岡(1991)は日本語の主観性表現を「表現系のモダリティ」(表現・伝達態度)と「判断系のモダリティ」(対命題態度)に二大別し、体系的に整理している。又、近藤(2012)では、主観性表現を「聞き手への態度」(表現・伝達態度)と「事態への態度」(対命題態度)の二種類に分け、関連項目を一つ一つ説明・考察している。本研究で取り上げる三項目のうち、欲求表現と意志表現は表現系に属しているのに対し、思考動詞は判断系に属していると思われる。

以下では欲求表現、意志表現、思考動詞の三つに分けて、それぞれの意味用法について、先行研究で指摘されていることを概観する。

(一) 欲求表現—「たい」、「ほしい」

日本語では、「食べたい」「読みたい」などの「たい」は感情形容詞とよく似た性質を持つ。そのままでは話者以外の欲求を直接表すことはできないため、外見からの判断を述べる「～がる」や様態の「そうだ」などをつけなければならないのである。また、「ほしい」の用法も「たい」と同じく、下の例のように、人称別によって形が変わっていく。

- 1) あの絵本がほしい。
- 2) 太郎があの絵本をほしがっている。

(二) 意志表現—「(よ) うと思う」、「つもり」

意志とは、ある行動を行う意志を表明するムードで、動詞意志形、動詞基本形、「動詞意志形+と思う」、「動詞基本形+つもりだ」などで

表される。本稿は教科書における「(よ) うと思う」「つもり」の現れ方について調査を行うため、以下は両者の意味用法とその違いについて先行研究を踏まえて述べる。

1. 意志形「(よ) うと思う」

森山 (1990) によると、意志形「しよう」は、意志を表す場合、独り言としてしか用いられない。聞き手に伝える場合には、「と思う」をつけて使わなければならない。また、意志を表す「しよう」は話し手の行動に関する判断を形成するものであるため、すでに決定された環境では用いられない。

3) [内 話] もう遅いから、帰ろう。

4) [聞き手に] もう遅いから、帰ろうと思う。

劉 (2006 : 150) では「と思う」について次のように述べている。つまり、話し手の意志を述べる場合、「と思う」は実質的な影響を与えず、間接的な表現にし、話し手の配慮を表すだけである。

「と思う」が意志形の文末に接続すると、発話時における話し手の意志を直接表すだけではなく、意志の予定をも聞き手に伝えるといった伝達の働きを持つ対話形式になる。(p.150)

2. 「つもり」

「つもり」は意志形「しよう」と違って、独り言として用いられない意志表現である。近藤 (2012 : 167) では、通常「つもり」は談話がなされる前から決意し固まっている意志を表すため、その場でやろうと決めたことには使えないと指摘している。なお、「つもり」はその行動が実際に行われるかどうかは問題にしていないため、必ず実現するとは限らない。また、例 (5) のように聞き手の意志を問う場合には使にくい。

5) ??何をするつもりですか。

(三) 思考動詞「～と思う」

日本語で「思う」と言った場合、〈私は〉が主語である。例えば、「この人は厳しいと思います」という文を見ると、「と思う」の主語としては一人称と解釈されるのが普通である。他人の判断を伝える場合、「思っている」のような形を取らなければならない。例(6)では「思う」の主体は話し手になり、例(7)では「思っている」の主体は「太郎」となる。従って、「と思う」は感情形容詞に似た「心理述語」と言える。

6) 太郎は行かないと思う。

7) 太郎は行かないと思っている。

また、劉(2006:157)では「と思う」について「引用節の情報内容に対して主観的に気持ちを調和して伝達の効果を高める働きを持つ」と指摘している。日本語記述文法研究会(2003:184)では「〈と思う〉は、話し手の判断や意見を聞き手に向けて表明する表現である」と説明している。すなわち、「と思う」は聞き手への配慮のある表現へとつながるものである。

日本語記述文法研究会(2003:184)は、「と思う」についてさらに次の三つの用法を提示している。

①話し手なりの判断を示す用法

例：この本はきっと売れると思う。

②不確かさを表す用法

例：たしか、あの時は鈴木もそこにいたと思います。

③話し手の主張を明示する用法

例：あの人は身勝手だと思う。

但し、意味が多少違っても、いずれも聞き手不在発話では用いられないと指摘している。

(四) まとめ

以上のように、日本語では、行為主体が顕示されない場合、文末の暗示によって判断することができるのに対し、中国語には日本語のような主語の暗示がなく、主語が顕示されなければ行為の主体は話者に関わるか、話者以外のものに関わるかを判断するのが非常に難しい。

三、教科書分析

学習者ははじめのうちは教科書に頼る部分が多く、教科書では、どのように扱われているのかを知っておく必要がある。本稿では以上の先行研究を踏まえて、初級の教科書における主観性表現の現れ方について調査した。以下に調査方法及び調査結果を示し、さらに、調査結果に基づき、考察を進める。

(一) 調査対象とした教科書

本稿では教科書の選定においては、まず台湾で出版されている文法の教材を集めた。その中から構造シラバスを中心とし、語学四技能の養成を目標としているものを選んで比較してみたい。よって、台湾の大学でよく使用されている初級の教科書—『大家的日本語初級Ⅰ・Ⅱ 進階Ⅰ・Ⅱ』『新文化日本語 初級1～4』『日本語 GOGOGO1～4』『進学日本語初級Ⅰ、Ⅱ』この四種類を代表として分析することとする。それぞれの特徴と付属教材について、以下のようにまとめている。

【各教科書の特徴と付属教材】

- ① 『大家的日本語初級Ⅰ・Ⅱ 進階Ⅰ・Ⅱ』（以下『みんな』と略す）
〔特徴〕研修者、大学生、主婦など対象者を特に限定しない汎用性の高い教材と言われている。読解教材、聴解教材などの関連教材が充実している。

〔付属〕 CD、問題のスク립ト、教師用指導手引書

② 『日本語 GOGOGO1~4』(以下『GOGOGO』と略す)

〔特徴〕 対象は大学、高校、専門学校などで日本語を専攻している学習者。主に四技能を身につけることを目的としている。文法には中国語の説明がついている。初級の学習者にとってわかりやすい教材と言われている。

〔付属〕 CD、練習帳

③ 『新文化日本語 初級 1~4』(以下『新文化』と略す)

〔特徴〕 将来、日本の大学や専門学校に進学する学習者を前提としている。日本の日常生活で日々直面する場面でコミュニケーションができるように、主に会話に重点を置いた教材である。生き生きと伝えるためにイラストが多く使われている。

〔付属〕 CD、教師用指導手引書

④ 『進学日本語初級 I、II』(以下『進学』と略す)

〔特徴〕 対象は日本語を初歩から学習し、日本の大学、専門学校などへ進学する学習者。日本語教師が直接法による使用することを前提とした教材である。

〔付属〕 CD、練習帳、宿題帳、教師用指導手引書

本稿では教科書での主観性表現にかかわる課を考察し、いかに提出されているかに注目する。まず、それぞれの主観性表現において、次の三点を重点に考慮し述べる。

- ① 導入の有無:教科書内で一項目の文型として取り上げているかどうかを調べた。
- ② 提出頻度:導入された課内に表れている例文のみを手作業により引き抜く。他の課にも調査項目の例文や文型が所々に出ていると考え

られるが、調査範囲を絞るため、今回の調査では除外した。

- ③ 指導の状況に対する考察:教科書の文法解説や教師用の指導手引きでは、調査項目についてどのように説明されているかを整理し、その特徴と問題点を述べる。

なお、〈表1〉は今回の研究で取り扱う教科書の詳細とその構成を示している。

〈表1〉

教科書の詳細とその構成

教科書名	全課	扱われている課	各教科書の構成
『みんな』	50 課	13、21、31	文型／例文／会話／練習 A,B,C／問題
『GoGoGo』	40 課	18、23、28	単語表／文型練習／会話／文法解説／コラム
『新文化』	36 課	11、13、20、23	本文／文型／練習／練習問題
『進学』	22 課	7、10、13、15	語彙リスト／文型／会話／練習

(二) 教師用指導手引きの説明について

次に、教科書の文法解説やその教師用指導手引きでどのように説明しているのかを少し詳しく見てみたい。

本稿で取り扱う教科書では、主観性に関わる調査項目に対して「話し手が考えたり、感じたりしたことを述べるときに使う文型である」というような説明が最も多く見られる。

〈表 2〉

欲求表現「たい」「ほしい」について

	欲求表現「たい」「ほしい」
『みんな』教師用指導手引き	<p>「たい」：<u>話し手自身の欲求を言うときと聞き手の欲求を尋ねるときに使う。</u></p> <p>「ほしい」：<u>話し手がいろいろなものを所有したいという欲求を表現する形である。</u>聞き手の欲求を問う場合にも用いられるが、第三者の欲求を表すのには使えない。</p> <p>(p.146-148)</p>
『GOGOGO』文法解説	<p>一人称の場合、「たい、ほしい」で自分の願望を表す。三人称の場合「がる」や「と言っている」を付け加える必要がある。</p> <p>(Ⅲp.77)</p>
『新文化』教師用指導手引き	<p>「たい」は<u>個人の願望を表現し、実行不可能なことや可能性の低いことでも表現できる。</u>(I p.28)</p>
『進学』教師用指導手引き	<p>第三者の願望を表す場合、「と言っていた」を利用して「アリフさんはカメラが欲しいと言っていました」などの表現ができる。(p.93)</p>

〈表 2〉のように欲求表現「たい」「ほしい」について、『みんな』『GOGOGO』『進学』の三冊では第三者の欲求を表す場合、そのまま使えず、「がる」や「と言っている」を付け加えなければならないという説明がついている。

〈表 3〉

意志表現「(よ) うと思う」について

	意志表現「(よ) うと思う」
『みんな』教師用指導手引き	話し手が抱いている意志や計画を聞き手に伝える。(p.65)
『GOGOGO』文法解説	話し手の意志や計画を聞き手に伝える。(Ⅲp.198)
『新文化』教師用指導手引き	実行する意思があり、実現の可能性が高いことが条件となっている。(Ⅰ p.28)
『進学』教師用指導手引き	第三者の意志は「つもりだ」と同様に推量、伝聞、話者の判断を表す表現をつけて表す。聞き手を主語にした疑問文「あなたは～ようと思っていますか」は相手に立ち入りすぎる印象があるので、避けたい。(p.118)

意志表現「(よ) うと思う」について、〈表 3〉のように、『進学』の指導手引き以外、聞き手と第三者の意志に関する用法はいずれも説明されていない。

〈表 4〉

意志表現「つもり」について

	意志表現「つもり」
『みんな』教師用指導手引き	<u>話し手の意志を表す。</u> 「意向形＋と思っています」に比べると、話し手の自分の意志への確信度が高い。(p.67)
『GOGOGO』文法解説	「ようと思っている」に比べると、より積極的な性格を帯びる。(Ⅲp.198)
『新文化』教師用指導手引き	<u>話し手が具体的に将来計画していることを表す。</u> 肯定の意志を表す表現は「ようと思っています」と同じ意味として扱う。(Ⅰ p.28) 相手の意思を尋ねる場合、はっきりとした上下関係のもとで目上の人を使う以外は「つもり」を使って質問すると失礼な印象を与えることがある。(Ⅰ p.29)
『進学』教師用指導手引き	<u>主語は話者であり、話者の意志を表すのに用いられる。</u> また、 <u>相手の意志を問う場合にも用いられる。</u> <u>第三者の意志を表す場合、「だろう」「そうだ」「らしい」「と思う」など推量や伝聞の言い方を伴うのが一般的である。</u> (p.117)

意志表現「つもり」に関しては、〈表 4〉のように、『新文化』と『進学』には相手の意志を問う場合に、どう用いられるかの説明がついているが、第三者の意志表現に関する言い方の説明は四種類の中で『進学』のみに載せられている。

〈表 5〉

思考動詞「と思う」について

	思考動詞「と思う」
『みんな』	<u>この文型は話し手が考えたり、感じたりしたことを述べる場合</u> や、ある事柄について予測したり、推量したことを述べる場合に用いられる。(p.204)
『GOGOGO』 文法解説	「わたしは～と思います」という表現を用いて <u>自分の意見を伝えることができる</u> 。(Ⅱp.173)
『新文化』	「と思う」について特に説明していない。
『進学』	<u>話し手の考えを述べる言い方</u> 。「は」で取り立てた人や物事に関して断定できないとき、あるいは断定を避けたいときに、使われる。(p.45)

思考動詞「と思う」に関しては、〈表 5〉のように、いずれも「話し手の考え方を述べる言い方」として扱われている。聞き手や第三者の意見に関する言い方がほとんど説明されていないことが調査から確認できた。

(三) 分析方法

続いて、教科書の文型や練習における例文の現れ方について分析していく。

〈表 6〉

『みんなの日本語』 欲求表現「たい」、「ほしい」

提出場		主体	提出例文
13 課	文型	一人称	私はパソコンがほしいです。
		一人称	私はてんぷらを食べたいです。
	例文	二人称	夏休みにどこへ行きたいですか。
		一人称	沖縄へ行きたいです。
	会話	一人称	今日は日本料理が食べたいですね。
	練習 A	一人称	私はくるまがほしいです。
		二人称	あなたはなにををしたいですか。
	練習 B	一人称	わたしはカメラが欲しいです。
		二人称	どんなカメラが欲しいですか。
	練習 C	一人称	お金が欲しいです。
		二人称	今、何がいちばん欲しいですか。

〈表 6〉が示すように、教科書ではどのように導入されているか、そして例文と練習においては、人称別による違いがどのように提示されているか、をまとめてみた（紙幅の制約で、ここで『みんなの日本語』の欲求表現「たい」「ほしい」の調査表のみを示している）。計算方法としては、練習問題の場合、同類型のものであれば（行為の主体が同じであること）、最初に出されている用例のみを計算に入れることにした。又、導入された課以外にも調査項目に関する文が多少出ているが、数が少ないし、用法の説明や人称別による変化の理由なども書かれていないため、本稿ではそれらの例を計算に入れなかった。なお、調査範囲を絞るため、例文の主体は「非人間」の場合も計算から除外した。

(四) 分析の結果

本稿は(三)の分析方法に基づき、教科書から調査項目と関連のある例文を抽出し、人称別の使われ方に差があるかどうかを調べた。

1. 欲求表現「たい」、「ほしい」

〈表7〉

欲求表現「たい」、「ほしい」の分析結果

	一人称		二人称		三人称		小計
	たい	ほしい	たい	ほしい	たい	ほしい	
みんな	3	4	2	2	0	0	11
GoGoGo	7	3	3	3	3	2	21
新文化	6	6	2	0	2	3	19
進学	4	3	2	1	0	0	10
合計	20	16	9	6	5	5	61

〈表7〉は「たい」「ほしい」の主体人称別の出現頻度を表すものである。人称別に出現頻度が高い順にあげていくと、最も多いのが一人称である。以下、二人称、三人称と続く。三人称の場合、「～がる」や「と言っている」などが例文の後ろについている。

2. 意志表現

(1) 「(よ) うと思う」

〈表8〉は「(よ) うと思う」の主体人称別の出現頻度を表すものである。主観性表現であるため、「たい」「ほしい」と同じく、一人称の出現頻度が最も多い。又、一人称主語の例文は「ようと思っている」という形で現れているのがほとんどである。ところが、二人称と三人称の数が非常に少ないことが結果から明らかになった。そのため、

「(よ) うと思う」の項目の使用では混乱に陥りやすいのは二人称主語と三人称主語であろうと予想できる。

〈表 8〉

「(よ) うと思う」の分析結果

	一人称	二人称	三人称	小計
みんな	8	0	0	8
GoGoGo	3	0	0	3
新文化	7	0	0	7
進学	3	1	0	4
合計	21	1	0	22

(2) 「つもり」

〈表 9〉

「つもり」の分析結果

	一人称	二人称	三人称	小計
みんな	9	0	0	9
GoGoGo	6	3	0	9
新文化	10	2	0	12
進学	4	3	0	7
合計	29	8	0	37

〈表 9〉は「つもり」の主体人称別の出現頻度を表すものである。結果から見れば、一人称の出現頻度が最も多い。二人称主語との共起はすべて疑問文である。ところが、三人称主語の出現頻度がゼロで、初級の教科書にはほとんど出ていないことが分かる。

3. 思考動詞「と思う」

〈表 10〉

思考動詞「と思う」の分析結果

	一人称	二人称	三人称	小計
みんな	6	4	0	10
GoGoGo	2	2	0	4
新文化	2	2	0	4
進学	8	2	0	10
合計	18	10	0	28

〈表 10〉は「と思う」の主体人称別の出現頻度を表すものである。(2)の「つもり」と同じように、一人称の出現頻度が最も多く、二人称主語との共起の文がすべて疑問文である。三人称主語の出現頻度もゼロであることが分かる。三人称主語の「と思っている」の例文は初級教科書にはほとんど見当たらない。

四、考察

以上の結果を〈表 11〉のようにまとめることができる。

〈表 11〉

結果一覧表

	たい	ほしい	つもり	ようと思う	と思う	小計
一人称	20	16	29	21	18	104
二人称	9	6	8	1	10	34
三人称	5	5	0	0	0	10
合計	34	27	37	22	28	148
平均 (%)	23	18	25	15	19	100

以下にそれぞれ人称別による出現頻度を比較してみたい。

- ① 一人称：最も多く提示されている項目は「つもり」という文型である。
- ② 二人称：「たい」「つもり」という二項目の出現頻度はあまり変わらない。「たい」や「つもり」を用いて相手の意志や希望を尋ねる表現は失礼な表現になると思われるため、出現頻度が低い結果につながると考えられる。
- ③ 三人称：初級の教科書では出現頻度の高い項目は「たい」「ほしい」という文型である。それに、ほとんど「たがっている」「ほしがっている」の形で提示されていることが分かった。

〈表 11〉結果一覧表が示すように、主観性表現であるため、人称別の出現頻度は当然一人称が最も多い。以下、二人称、三人称と続く。

〈表 12〉

人称別による例文の提示

主観性表現	一人称	二人称	三人称	説明
たい、ほしい (～がる)	○	○	○	二人称の例文がすべて疑問文である。
つもり	○	○	×	二人称の例文がすべて疑問文である。
ようと思う (～ている)	○	○	×	二人称の例文が少ないし、疑問文である。
と思う (～ている)	○	○	×	二人称の例文がすべて疑問文である。

また、〈表 12〉のように、「つもり」「ようと思う」「と思う」という三項目では三人称主語の導入や例文提出が皆無であることが調査結果から明らかになった。また、調査の結果によれば、二人称主語の場合、いずれも疑問文が用いられていることが確認できた。

上記の調査結果に基づき、日本語の初級教科書における主観性表現の現れ方について、その傾向や特徴、問題点などを指摘しつつ、次のように整理することができる。

- ① 調査項目はすべて主観性表現であるため、一人称の例文が当然最も多く載せられている。
- ② 調査結果から見ると、欲求表現を除き、三人称主語の例文がほとんど提出されていない。また、その理由に関してどの教科書にも説明されていない。
- ③ 二人称と三人称の例があまり載せられておらず、しかも使用可能かどうかの説明もほとんどついていないことが明らかになった。

調査項目においては、二人称主語と三人称主語の例が少ないし、一人称主語の例のようにそのまま「つもり」や「ようと思う」を使っていいのかなどについて、台湾の日本語教科書にはほとんど説明されていない。また、会話例が多いにも関わらず、三人称を主語にした例文の数がほとんど見当たらない。例えば、「と思う」という表現は初級において早い時期に初出しているが、テキストでは話者の思考内容といった程度にしか説明されていない。二人称や三人称の使用においては、ほとんど説明されていない。中級レベルに入ると、教科書に以下のような例文がしばしば出現しているため、何の説明も付け加えていなければ、学習者は混乱を起こす可能性が大きいであろう。

8) カタカナのことばは僕みたいな外国人には簡単だと思っている人がいるが、とんでもない。(『みんなの日本語中級 I』 p.56)

9) 幸せな瞬間、時間が止まってほしいと思うのは、男性より女性の方が多かった。(『みんなの日本語中級 I』 p.81)

日本語の主観性表現を指導する際に、語用上の使い分けを十分に説明しておかなければ、学習者はコミュニケーション活動においてトラブルを起こしたり、誤解を生じたりする恐れがあると考えられる。従って、日本語教育現場において人称別を分けて適宜に用例を出し、その相違点を意識させることは重要だと考えられる。

五、指導への提言

本稿の調査結果に鑑み、以下に教科書についての改善点を提言として述べる。

- ①主観性表現を指導する際、一人称主語の使用を載せるだけでなく、他の人称と関連した表現をも説明するようにする。

- ② 文型の把握練習に、異なった人称詞の表現練習を組み込む。また、人称別によって文末の形をどのように変えるかを説明する際に、用いられる例と用いられない例を、両方とも挙げて説明するとよい。
- ③ 会話形式の入った教科書には、登場人物の人間関係、場（改まり度）などを分かりやすく提示する。そして場面設定の例文を取り上げながら、それぞれの用法や文法を説明するべきである。導入に当たっては、次の三点を留意されたい。

- A. 会話の動作主は自分か他者かを学生に答えてもらうこと。
- B. 動作主が一人称の場合、その文末にどんな言葉が用いられるかを確認してもらうこと。
- C. 動作主が他者である場合、その文末表現は一人称のと同じであることを確認してもらうこと。

要するに、人称別による表現の違いを学生に意識させ、簡単なドリルを追加し、身につけるまで何度も口頭の練習をさせることが重要である。また、会話の中の主観性表現について、必要となる人称別の表現や用法に関する説明をその会話のすぐ下に記述するとよい。

六、終わりに

以上から、初級教科書には一部を除いて、いまだに主観性表現をあまり配慮してはいないことが判明した。日本語学習者は日本語の主観性表現の特徴を習得するまでには相当な時間を要するであろう。その上、発話内容が多少間違っている場合でも、それを指摘されない場合も多く、日本語が上達するとなおさら注意してもらえない。そのため、本稿では主観性表現に関して、教師が初級教科書を用いて指導する上での注意点を述べ、指導法の提案を試みた。

但し、今回は時間の制約上、初級教科書での出現頻度の調査にしか止まっておらず、中級や上級の教科書を調査することができなかった。級別でどんな問題や誤用が出るかなどについて、さらなる究明する必要があるため、また稿をあらためて論じることにしたい。

参考文献

- 安達太郎 (1999) 「意志のモダリティと周辺形式」『広島女子大國文』
16
- 庵 功雄ら著 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵 功雄ら著 (2002) 『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 加藤由紀子 (2001) 「感情表現における動詞とその周辺」『岐阜大学留学生センター紀要』 pp.47-59
- 国際学友会日本語学校編 (2000) 『進学日本語初級Ⅰ、Ⅱ』大新書局
- 国際学友会日本語学校編 (2000) 『進学日本語初級Ⅰ、Ⅱ 教師用指導手冊』大新書局
- 語言訓練測驗中心編 (2002) 『日本語 GOGOGO1~4』、豪風出版
- 小竹直子 (2007) 「日本語の感情表現における動詞と形容詞の対立—形態的に対応する動詞と形容詞の比較に焦点を当てて—」『信学技報』 pp.35-40
- 近藤安月子・姫野伴子 (2012) 『日本語文法の論点 43——「日本語らしさ」のナゾが氷解する——』研究社
- 佐藤尚子 (1993) 「つもりをめぐって」『千葉大学留学生センター雑誌 1』
82-91 千葉大学
- 砂川有里子ら著 (1998) 『日本語文型辞典』くろしお出版
- スリーエーネットワーク編 (2008) 『大家的日本語初級Ⅰ・Ⅱ 進階Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク編 (2009) 『大家的日本語中級Ⅰ』スリーエーネットワーク

- スリーエーネットワーク編 (2002)『大家的日本語初級 I・II 進階 I・II 【教師用指導書】』スリーエーネットワーク
- 鄭夏俊 (1994)「日本語における意志表現とモダリティ」『早稲田日本語研究』2 早稲田大学
- 友松悦子、宮本淳、和栗雅子 (2007)『どんな時どう使う日本語表現文型 200』大新書局
- 日本語記述文法研究会 (2003)『現代日本語文法 4』くろしお出版
- 仁田義雄 (1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 野浪正隆、孫樹喬 (2009)「中国人日本語学習者の意志表現についての理解状況」『大阪教育大学紀要』58 巻第 1 号
- 文化外国語専門学校日本語科編 (2009)『新文化日本語 1~4』大新書局
- 文化外国語専門学校日本語科編 (2000)『新文化初級日本語 I II 教師用指導手冊』雙大出版
- 益岡隆志 (1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 宮崎和人 (2002)『モダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2002)『モダリティ』岩波書店
- 森山卓郎 (1990)「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2
- 羅聖栄 (1995)『日本語と韓国語のモダリティの対照研究』筑波大学博士学位論文
- ラッチャニー・ピヤマーワディー (1991)『日本語とタイ語のモダリティの対照研究』筑波大学博士学位論文
- 劉笑明 (2006)『日本語語法学研究新解』南開大学出版社